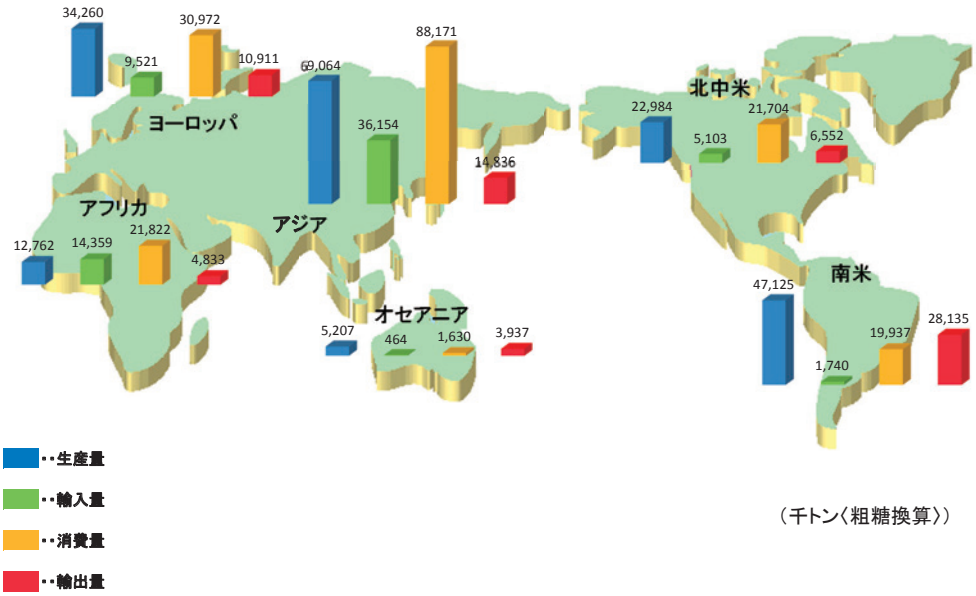
# 需給動向

## 砂糖の国際需給

調査情報部　佐々木　由花

## 1．世界の砂糖需給（2017年12月時点予測）

図１　絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2017/18年度予測値）




資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,December 2017」
（※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）
注１：年度は2017年10月～翌９月。
注２：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか５カ国を含む。

表１　世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、%）

| 年 度 | 期首在庫量 | 生産量 | 輸入量 | 消費量 | 輸出量 | 期末在庫量 | 期末在庫率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1989/90 | 35,477 | 109,012 | 27,349 | 109,390 | 32,516 | 29,932 | 27.4 |
| 1994/95 | 36,020 | 116,084 | 33,328 | 114,963 | 33,905 | 36,564 | 31.8 |
| 1999/2000 | 54,618 | 134,332 | 38,747 | 130,126 | 40,070 | 57,501 | 44.2 |
| 2004/05 | 65,620 | 141,016 | 46,976 | 144,649 | 50,021 | 58,942 | 40.7 |
| 2009/10 | 60,045 | 158,448 | 57,159 | 162,342 | 57,166 | 56,144 | 34.6 |
| 2013/14 | 74,274 | 181,485 | 58,464 | 175,774 | 59,109 | 79,340 | 45.1 |
| 2014/15 | 79,340 | 180,710 | 58,811 | 178,746 | 59,673 | 80,442 | 45.0 |
| 2015/16 | 80,442 | 174,221 | 66,433 | 180,275 | 69,299 | 71,521 | 39.7 |
| 2016/17 | 71,521 | 178,449 | 62,144 | 180,197 | 64,062 | 67,855 | 37.7 |
| 2017/18（2017年9月予測） | 67,586 | 191,794 | 61,212 | 183,953 | 63,637 | 73,002 | 39.7 |
| 2017/18（2017年12月予測） | 67,855 | 191,402 | 61,799 | 184,236 | 63,662 | 73,158 | 39.7 |

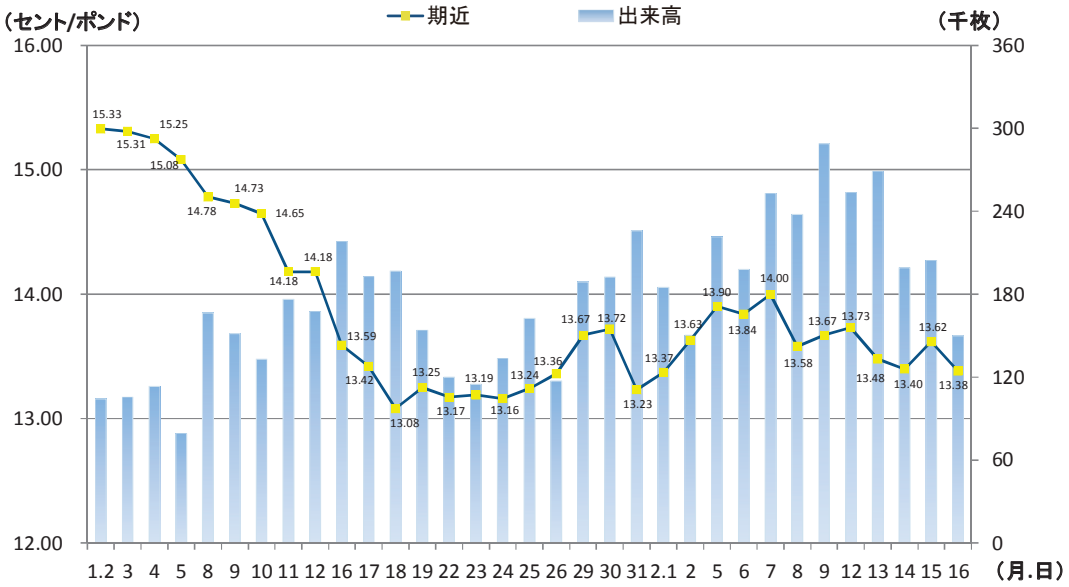
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, December 2017」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：2014/15年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値である。
注３：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2018年４月号の掲載予定となります。直近の内容は2018年１月号をご参照ください。
「世界の砂糖需給」　：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001644.html
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001645.html

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖相場の動き（1/2 ～ 2/16）
### ～世界的に潤沢な供給予測などからおおむね1ポンド当たり13 ～ 14セント台で推移～

図２　ニューヨーク粗糖先物相場の動き




資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）

ニューヨーク粗糖先物相場（期近３月限）の2018年１月の推移を見ると、中国による砂糖の輸入需要の増大見込みやブラジルのエタノール生産の増加見通しなどが押し上げ要因となり、２日は１ポンド当たり15.33セントの値を付けた。しかし、EUやアジア地域の増産見通しが押し下げ要因となり、11日には同14.18セントへ下落した。その後も、主要生産国タイのサトウキビ収穫量が過去最高水準と見込まれていることや、ブラジルで政府が米国産エタノールに対する輸入関税の撤廃を検討していることを受け、サトウキビのエタノール仕向け割合が減少し砂糖生産が増大するとの見通しから、世界的な供給過剰が予想されたため、18日には同13.08セントまで続落した。その後、米ドル安に支えられ相場は小幅な値動きで推移し、30日には同13.72セントへ上昇したが、引き続き主要生産国での増産見通しが押し下げ要因となり、31日は同13.23セントとなった。

２月に入ると、米ドルが軟調であることに支えられ、上げ基調で推移し、７日は同14.00セントまで上昇した。価格が上値に達したとして、８日は同13.58セントへ下落したが、短期的に供給が不足するとの見通しが押し上げ要因となり、12日には同13.73セントの値を付けた。その後は弱含みで推移し、16日には同13.38セントとなった。

## 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2018年２月時点予測）

### ブラジル

**2017/18年度（4月～翌3月）の見通し**

【サトウキビ】
収穫面積：874万ha（前年度比3.4%減）
生 産 量：６億3560万トン（同3.3%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：4040万トン（同0.3%減）
輸出量：2826万トン（同1.7%減）

### 2017/18年度の砂糖生産量は前年度並み、輸出量はわずかに減少の見込み

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2018年２月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2017/18砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、874万ヘクタール（前年度比3.4%減）とやや減少し、生産量は、６億3560万トン（同3.3%減）と見込まれている（表２）。

しかし、砂糖生産量は、4040万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同0.3%減）と前年度並みが見込まれている。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているためである。輸出量については、世界的な輸入需要が弱まると見込まれ、2826万トン（同1.7%減）とわずかな減少が見込まれている。なお、11月からの輸出量の減少により、１月時点での中南部地域の砂糖在庫量は過去５年で最も高水準となっている。

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）(注1)が発表した2017年４月～翌１月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は、多雨の影響から、５億8396万トン（前年同期比1.7%減）とわずかに減少したが、砂糖生産量は、3583万トン（同1.6%増）とわずかに増加した。エタノール生産量は、2533万キロリットル（同1.2%増）とわずかに増加した一方、輸出量も含めたエタノールの販売量は、2222万キロリットル（同0.1%減）と前年度並みとなった。含水エタノール(注2)の国内販売量は、価格が上昇したものの、1292万キロリットル（同3.9%増）とやや増加した。

政府は１月、2017年９月に開始したエタノール輸入に対する20%の関税(注3)について、撤廃する可能性を示唆した。この背景には、ブラジル国内でガソリン価格が上昇し、エタノール需要が高まる中、エタノール供給が逼迫（ひっぱく）しつつあることがある。

現地報道によると、南米南部共同市場（メルコスール）とEUの自由貿易協定（FTA）の交渉妥結は、2019年へ持ち越される可能性が高まっている。これは、両者の政治的な事情によるもので、EUでは、議会選挙の結果、現政権の影響力が弱まるドイツに代わり、交渉に消極的なフランスが影響力を強める一方、南米でも、ブラジルとパラグアイが、大統領選挙を控えて４月以降内政に注力することが見込まれているため、双方の合意が早急に形成されなければ、交渉は一時的に休止されるとの見方がある。これに対し、２月下旬を目途に、同FTAは最終調整に向かうとの報道もある。同FTAでは、EUは、粗糖については、10万トンの関税割当（枠内税率は現行のCXL割当枠(注4)と同率（１トン当たり98ユーロ〈１万3426円〈2018年１月末日TTS：１ユーロ＝137円〉〉）を適用し、エタノールについては、６年以内に60万トンの関税割当を導入し、こ

のうち40万トンは化学工業向けとなるとみられている。

また、新たな再生可能エネルギー法（RenovaBio）が2017年12月26日に成立し、2019/20年度までに施行するとみられている。同法は、現行27%のガソリンへの無水エタノールの最低混合率を、2022年までに30%、2030年までに40%へ引き上げることなどが盛り込まれている。政府は、国内のバイオ燃料生産および利用を促進し、パリ協定に基づく温室効果ガス排出量の削減を目指しており、こうした振興策やガソリンに対する価格優位性の高まりから、国内のエタノール需要は2030年には現在の２倍になると見込んでいる。2017年９月に発足したトウモロコシ由来のエタノール生産を振興する全国組織（UNEM）の幹部は、現在、国内で生産されるエタノールはほとんどがサトウキビ由来であるが、今後はトウモロコシ由来の需要が高まるとし、特に、マットグロッソ州では今後５年で年間30億～ 40億リットルのトウモロコシ由来のエタノールが生産されると見込んでいる。

（注１）ブラジル全体の砂糖生産量の９割を占める中南部地域を区域としている団体。

（注２）自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の２種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を５%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

（注３）政府は2017年８月23日、エタノール輸入に対し、年間60万キロリットル（四半期ごとに15万キロリットル）の無税の関税割当を設けるとともに、これを超過して輸入されるエタノールに対しては20%の関税を課すことを決定した。同関税は、エタノール在庫量の低下に伴い2010年に停止して以来の再導入で、２年間実施された後、見直しが予定されていた。同措置は、国内のエタノール生産量の減少やトウモロコシの国際価格の下落などにより米国からのトウモロコシ由来のエタノール輸入量が急増している状況を受け、UNICAや北東部の砂糖・エタノール製造企業などが、以前から政府へ実施を要請していたものである。

（注４）粗糖輸入国であったフィンランドなどのEU加盟に当たり協議、合意の下に設定された関税割当で、対象は、精製糖製造用の甘しゃ粗糖（ただし、インドはHSコード1701台のすべての品目）。

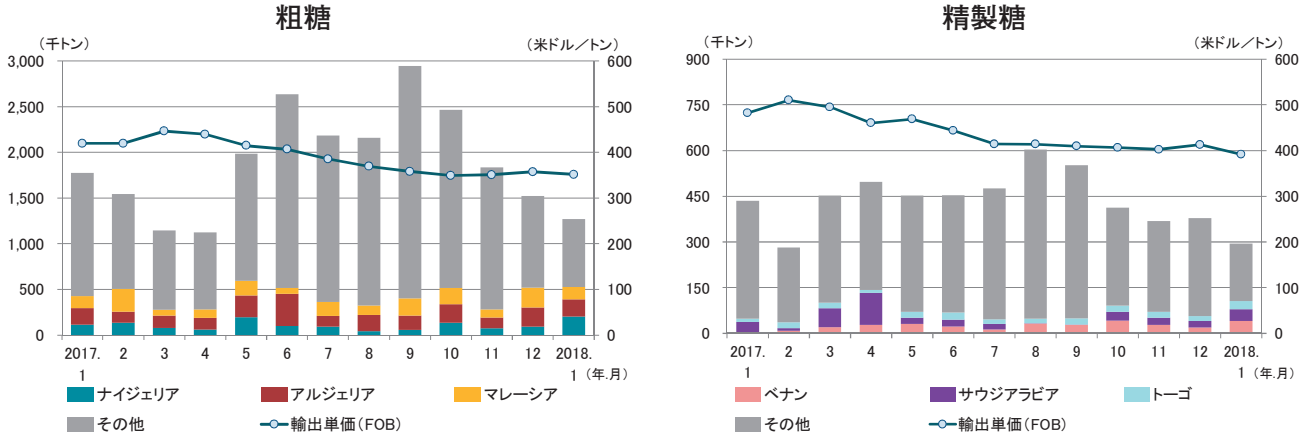
**表２　ブラジルの砂糖需給の推移**

（単位：千ha、千トン、%）

| 年度 | | 2014/15 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18（1月予測） | 2017/18（2月予測） | 前年度比（増減率） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収穫面積 | | 9,004 | 8,655 | 9,049 | 8,739 | 8,739 | ▲ 3.4 |
| サトウキビ生産量 | | 634,767 | 665,586 | 657,184 | 635,600 | 635,600 | ▲ 3.3 |
| 砂糖 | 生産量 | 37,313 | 35,194 | 40,534 | 40,800 | 40,400 | ▲ 0.3 |
| | 輸入量 | – | – | – | – | – | – |
| | 消費量 | 12,400 | 11,800 | 11,700 | 11,900 | 11,800 | 0.9 |
| | 輸出量 | 24,666 | 25,124 | 28,740 | 28,700 | 28,255 | ▲ 1.7 |
| | 期末在庫量 | 2,543 | 813 | 906 | 1,106 | 1,251 | 38.0 |
| | 期末在庫率 | 20.5 | 6.9 | 7.7 | 9.3 | 10.6 | 36.8 |

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2018」

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移




資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

## インド

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

**【サトウキビ】**
**収穫面積：498万ha（前年度比5.0%増）**
**生 産 量：３億3769万トン（同10.1%増）**

**【砂糖（甘しゃ糖）】**
**生産量：2837万トン（同28.2%増）**
**輸入量： 182万トン（同31.8%減）**

### 2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量は大幅減の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は498万ヘクタール（前年度比5.0%増）とやや増加し、生産量は３億3769万トン（同10.1%増）とかなりの増加が見込まれている（表３）。

砂糖生産量は、サトウキビの増産に加え、主要生産州で適度な降雨に恵まれ、製糖歩留まりの向上が見込まれていることから、2837万トン（同28.2%増）と３年ぶりの増加が見込まれている。砂糖輸入量は、生産量が増加することから、182万トン（同31.8%減）と大幅な減少が見込まれている。

インド製糖協会（ISMA）によると、2017年10月～翌１月の砂糖生産量は、精製糖換算で1707万トン（前年同期比32.8%増）と大幅に増加した。このうち、マハラシュトラ州では631万トン（同71.7%増）、ウッタルプラデシュ州では545万トン（同19.5%増）、カルナタカ州では266万トン（同32.1%増）といずれも大幅に増加し、グジャラート州では58万トン（同0.9%増）とわずかに増加した（図３）。ISMAが１月下旬に発表した2017/18年度の砂糖需給見通しによると、砂糖生産量は、精製糖換算で2610万トンと見込まれている。

現地報道によると、中央政府は２月６日、隣国パキスタンからの補助金付き砂糖のダンピング輸出を阻止するため、砂糖の輸入関税を現行の50%から100%へ引き上げた。パキスタンは、近ごろ、輸出補助金の対象となる砂糖の数量を以前の50万トンから200万トンに拡大しており、同国からの供給を完全に制御するためには、現行の税率では不十分であるとの懸念が高まっていた。製糖業者のサトウキビ買い入れ価格は前年同期に比べ11%上昇する中で、安価な砂糖の輸入増加により、製糖業者の利益がこれ以上そがれることがないよう、輸入禁止

に近い水準まで関税率を引き上げることとなった。業界関係者によると、パキスタン産砂糖のムンバイ港での陸揚費を含む輸入価格は、無税の場合、１トン当たり315米ドル（３万4650円〈１月末日TTS：１ドル＝110円〉）と、同地域における砂糖価格の同445ドル（４万8950円）と比較して、はるかに安くなっている。

また、政府は２月８日、２月および３月の製糖業者に対する砂糖の最低保有在庫数量を設定した。同措置により、製糖業者は、２月末時点では当月生産量（輸出仕向け分を除く）の少なくとも83％を、３月末時点では同86％を在庫として保管しなければならない。同措置は、国内供給量の増加により国内砂糖価格が10月以降17％下落し、製糖業者による生産者へのサトウキビ代金の支払いが難航していることを受け、製糖業者へ販売上限を設けることでこれ以上の価格下落を防ぐことを目的としている。

一部報道によると、政府は、現行20％の砂糖の輸出関税(注)の撤廃を検討している。同関税は、砂糖の減産による砂糖価格の高騰を受け、2016年６月中旬以降導入されていたが、国内砂糖価格の下落や、国内供給量が消費量を100万トンほど上回ることが見込まれること受け、余剰分を輸出へ仕向けるため、撤廃が検討されている。

（注）粗糖を輸入して６カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除く。

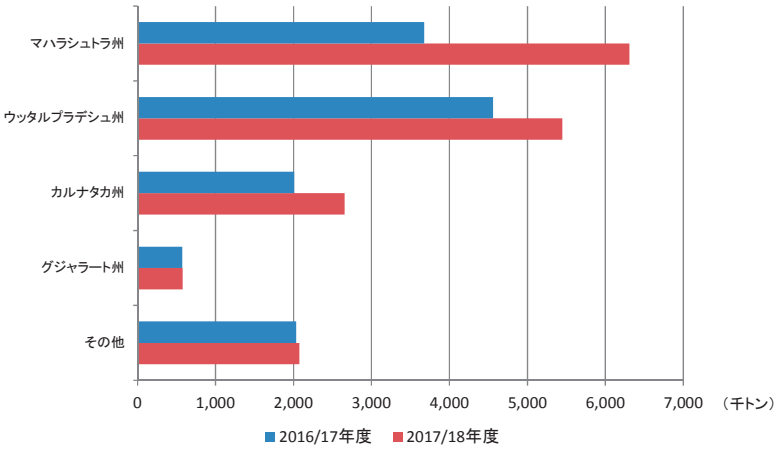
**表３　インドの砂糖需給の推移**

（単位：千ha、千トン、％）

| 年度 | | 2014/15 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18（1月予測） | 2017/18（2月予測） | 前年度比（増減率） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収穫面積 | | 5,060 | 5,055 | 4,739 | 4,978 | 4,978 | 5.0 |
| サトウキビ生産量 | | 362,333 | 358,891 | 306,720 | 337,690 | 337,690 | 10.1 |
| 砂糖 | 生産量 | 30,616 | 27,372 | 22,126 | 27,200 | 28,370 | 28.2 |
| | 輸入量 | 1,303 | 1,904 | 2,665 | 2,000 | 1,818 | ▲ 31.8 |
| | 消費量 | 27,842 | 27,010 | 26,739 | 27,500 | 27,200 | 1.7 |
| | 輸出量 | 2,608 | 4,105 | 2,249 | 1,500 | 1,900 | ▲ 15.5 |
| | 期末在庫量 | 9,692 | 7,852 | 3,655 | 3,938 | 4,743 | 29.8 |
| | 期末在庫率 | 34.8 | 29.1 | 13.7 | 14.3 | 17.4 | 27.6 |

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2018」

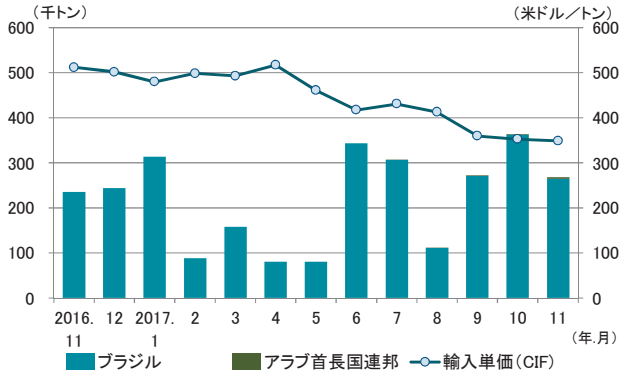
**図３　インドの地域別甘しゃ糖生産量（10月～翌１月）**



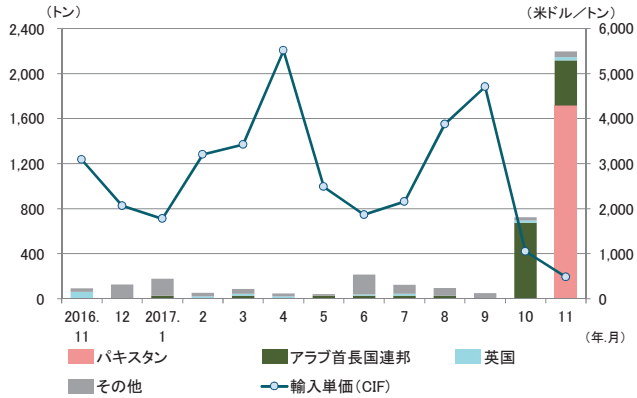

資料：ISMA

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

粗糖




精製糖




資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

## 中　国

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

**【サトウキビ・てん菜】**
**収穫面積：193万ha（前年度比5.5%増）・20万ha（同30.9%増）**
**生 産 量：１億3700万トン（同8.3%増）・1100万トン（同42.8%増）**

**【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】**
**生産量：1109万トン（同9.8%増）**
**輸入量：　533万トン（同45.9%増）**

### 2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌９月）は、サトウキビについては、収穫面積が193万ヘクタール（前年度比5.5%増）とやや増加し、生産量は単収の増加もあり、１億3700万トン（同8.3%増）とかなりの増加が見込まれている（表４）。

てん菜についても、収穫面積は20万ヘクタール（同30.9%増）、生産量は1100万トン（同42.8%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。地域別では、主要生産地である内モンゴル自治区の増加が見込まれている。これらにより、砂糖生産量は、1109万トン（同9.8%増）とかなりの増加が見込まれている。

中国砂糖協会（CSA）によると、2017年10月～翌１月の砂糖生産量は、精製糖換算で513万トン（前年同期比12.9%増）とかなり増加した(図４)。このうち、甘しゃ糖は、403万トン（同11.6%増）とかなり増加し、てん菜糖は110万トン（同18.3%増）と大幅に増加している。これは、製糖作業が完全に停止する旧正月（春節）が、前年は１月であったのに対し、今年は２月であることが少なからず影響しているとみられる。

中国農業省は２月８日、砂糖を含む農産物の需給見通しを公表した。これによると、砂糖生産量は、サトウキビおよびてん菜の栽培面積の拡大により、1035万トン（前年度比11.4%増）とかなり増加すると見込まれ、このうち甘しゃ糖は、915万トン（同11.0％増）、てん菜糖は120万トン（同14.3%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。

砂糖輸入量は、依然として生産量が消費量を下回ると見込まれる中、期首在庫量が低水準にあることもあり、533万トン（同45.9%増）と大幅な増加

が見込まれている。

砂糖輸入については、2017年５月22日から３年間、世界貿易機関（WTO）協定に基づく関税割当（枠内関税率15%）の枠外で輸入される砂糖の関税率が95%まで引き上げられている(注)。また、中央政府は2017年10月中旬、2018年の砂糖の輸入割当数量を前年と同水準の195万トンに設定するとともに、枠外数量については、前年比半減の100万トンに制限するとしている。中国税関によると、2017年12月の輸入量は、13万トン（前年同月比40.0%減）と前年同月の６割程度へ大幅に減少した。2017年10～12月までの輸入量は45万6352トン（前年同期比0.1%減）と前年度並みとなっている。

（注）海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして、ブラジル、豪州および韓国などの砂糖輸入先国を対象に実施した調査結果を踏まえ、50%であった枠外税率が95%に引き上げられた。ただし、開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

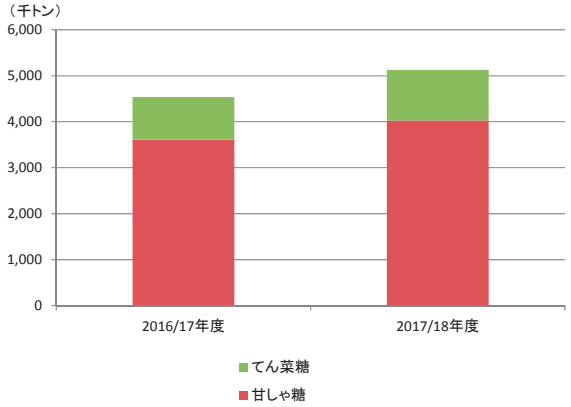
**表４　中国の砂糖需給の推移**

（単位：千ha、千トン、%）

| 年度 | | 2014/15 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18（1月予測） | 2017/18（2月予測） | 前年度比（増減率） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| サトウキビ収穫面積 | | 1,760 | 1,660 | 1,827 | 1,927 | 1,927 | 5.5 |
| サトウキビ生産量 | | 125,611 | 117,295 | 126,522 | 136,998 | 136,998 | 8.3 |
| てん菜収穫面積 | | 139 | 135 | 149 | 195 | 195 | 30.9 |
| てん菜生産量 | | 8,000 | 7,337 | 7,705 | 11,000 | 11,000 | 42.8 |
| 砂糖 | 生産量 | 11,474 | 9,459 | 10,095 | 11,087 | 11,087 | 9.8 |
| | 輸入量 | 5,354 | 6,199 | 3,653 | 5,766 | 5,329 | 45.9 |
| | 消費量 | 16,600 | 17,283 | 16,739 | 17,500 | 17,200 | 2.8 |
| | 輸出量 | 64 | 167 | 135 | 80 | 115 | ▲ 14.5 |
| | 期末在庫量 | 7,305 | 5,513 | 2,387 | 1,660 | 1,488 | ▲ 37.7 |
| | 期末在庫率 | 44.0 | 31.9 | 14.3 | 9.5 | 8.6 | ▲ 39.4 |

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2018」

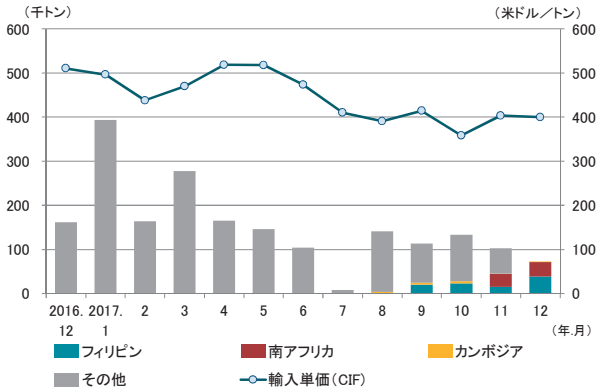
**図４　中国の砂糖生産実績（10月～翌１月の生産量）**



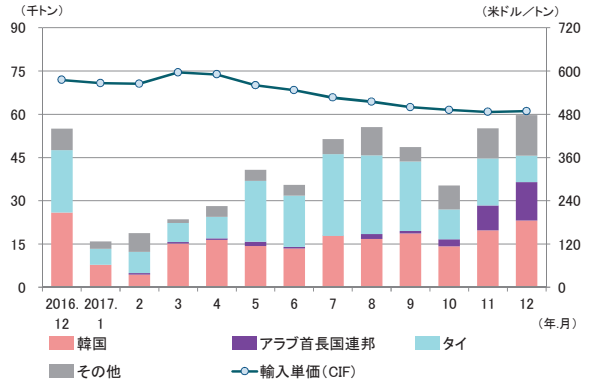

資料：CSA
注：精製糖換算。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

粗糖




精製糖




資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

## E　U

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

**【てん菜】**
**収穫面積：185万ha（前年度比16.0%増）**
**生 産 量：１億4162万トン（同20.1%増）**

**【砂糖（てん菜糖）】**
**生産量：2087万トン（同18.9%増）**
**輸入量：　181万トン（同43.6%減）**

### 2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量は大幅減の見込み

生産割当廃止後、初年度となる2017/18砂糖年度（10月～翌９月）は、てん菜の収穫面積が185万ヘクタール（前年度比16.0%増）、生産量は、好天による単収の増加もあり、１億4162万トン（同20.1%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている（表５）。これにより、砂糖生産量は2087万トン（同18.9%増）と大幅に増加する一方、砂糖輸入量は181万トン（同43.6%減）と大幅な減少が見込まれている。

欧州委員会は１月下旬、2017/18年度の砂糖の需給見通しを公表した。これによると、砂糖生産量は精製糖換算で2058万トン（同22.2%増）と大幅に増加する一方、輸入量は186万トン（同38.9%減）と、前年度の６割程度と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量の増加に加え、WTOの裁定により設けられた輸出上限が生産割当の廃止に伴い撤廃されることから、320万トン（同2.3倍）と見込まれている。ただし、輸出量は、国際価格とEU域内価格の動向に左右されるとみられる。

現地報道によると、アイルランド政府は２月８日、糖類を含む飲料への課税を４月６日から開始すると発表した。税率は糖類含有量に応じて設定され、100ミリリットル当たりの糖類含有量が①５グラム以上８グラム未満の場合、１リットル当たり0.2ユーロ（27円〈１月末日TTS：１ユーロ＝137円〉）②8グラム以上の場合、同0.3ユーロ（41円）―となっている。同措置による税収は、2018年は4～12月で約3000万ユーロ（41億1000万円）、年換算では約4000万ユーロ（54億8000万円）と試算されている。

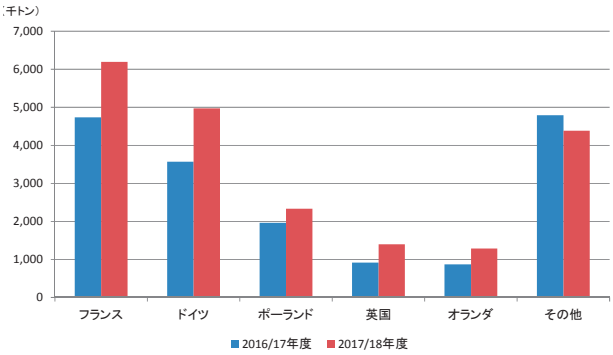
### 表５　EUの砂糖需給の推移

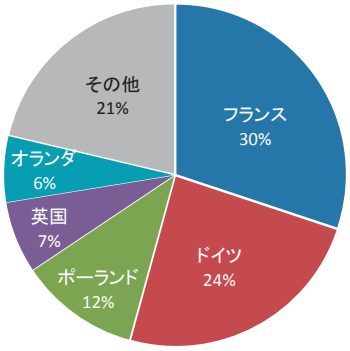
（単位：千ha、千トン、%）

| 年度 | | 2014/15 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18（1月予測） | 2017/18（2月予測） | 前年度比（増減率） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収穫面積 | | 1,632 | 1,437 | 1,592 | 1,846 | 1,846 | 16.0 |
| てん菜生産量 | | 131,009 | 105,162 | 117,948 | 141,621 | 141,621 | 20.1 |
| 砂糖 | 生産量 | 19,147 | 15,098 | 17,563 | 20,578 | 20,874 | 18.9 |
| | 輸入量 | 3,456 | 3,750 | 3,209 | 1,855 | 1,810 | ▲ 43.6 |
| | 消費量 | 19,245 | 18,719 | 18,740 | 18,810 | 18,500 | ▲ 1.3 |
| | 輸出量 | 1,558 | 1,506 | 1,493 | 2,800 | 3,904 | 161.4 |
| | 期末在庫量 | 10,599 | 9,222 | 9,760 | 9,871 | 10,040 | 2.9 |
| | 期末在庫率 | 55.1 | 49.3 | 52.1 | 52.5 | 54.3 | 4.2 |

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2018」

### （参考）EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合




資料：欧州委員会
注１：精製糖換算。
注２：2018年１月時点での予測値。
注３：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。
注４：生産割合は2017/18年度。

## ４. 日本の主要輸入先国の動向（2018年２月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14－110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14－200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この２カ国で９割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として３カ月に１回の報告とし、今回はフィリピンを報告する。

## 豪　州

### 2017/18年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：40万ha（前年度比1.8%増）
生 産 量：3343万トン（同8.4%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：471万トン（同4.3%減）
輸出量：357万トン（同8.8%減）

### 2017/18年度の砂糖生産量はやや減少、輸出量はかなり減少の見込み

2017/18砂糖年度（７月～翌６月）のサトウキビ収穫面積は40万ヘクタール（前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれているものの、３月に襲来したサイクロンの影響による単収の減少から、生産量は3343万トン（同8.4%減）とかなりの減少が見込まれている（表６）。これに伴い、砂糖生産量は、471万トン（同4.3%減）とやや減少が見込まれている。輸出量は、中国向けなどの減少に伴い357万トン（同8.8%減）とかなりの減少が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が2017年12月中旬に公表した2017/18年度の生産予測によると、サトウキビ栽培面積は38万ヘクタール（同2.2%増）とわずかに増加するものの、サイクロンの被害に伴い、１ヘクタール当たり収量が88トン（同10.0%減）とかなりの減少が見込まれていることから、砂糖生産量は、470万トン（同2.2%減）とわずかに減少すると見込まれている。輸出量については、前年度並みの399万トン（同0.6%減）と見込まれている。

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）によると、2017/18年度のサトウキビ圧搾実績は3335万トン（同8.7%減）とかなり減少し、年度当初見込みより60万6000トン下方修正された。

豪州政府は２月12日、ペルーとの自由貿易協定に署名した。これにより、豪州産粗糖は、無税の関税割当の下で、ペルーへ輸出されることとなる。豪州産粗糖の関税割当は、初年度は３万トンであるが、今後５年で６万トン、18年で９万トンへ、毎年拡大される予定である。これにより、ペルーの粗糖輸入量に占める豪州産の割合は30%に拡大すると見込まれている。

**表６　豪州の砂糖需給の推移**

（単位：千ha、千トン、%）

| 年度 | | 2014/15 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18（1月予測） | 2017/18（2月予測） | 前年度比（増減率） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収穫面積 | | 363 | 381 | 393 | 400 | 400 | 1.8 |
| サトウキビ生産量 | | 32,360 | 34,827 | 36,500 | 33,426 | 33,426 | ▲ 8.4 |
| 砂糖 | 生産量 | 4,780 | 5,052 | 4,926 | 4,877 | 4,713 | ▲ 4.3 |
| | 輸入量 | 170 | 76 | 107 | 110 | 150 | 39.9 |
| | 消費量 | 1,337 | 1,298 | 1,280 | 1,355 | 1,275 | ▲ 0.4 |
| | 輸出量 | 3,687 | 4,152 | 3,912 | 3,700 | 3,569 | ▲ 8.8 |
| | 期末在庫量 | 1,088 | 766 | 609 | 540 | 628 | 3.3 |
| | 期末在庫率 | 81.4 | 59.0 | 47.6 | 39.9 | 49.3 | 3.7 |

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2018」

## タ　イ

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：154万ha（前年度比9.4％増）
生 産 量：１億500万トン（同12.9％増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：1200万トン（同16.5％増）
輸出量： 817万トン（同15.5％増）

### 2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸出量はかなり増加の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は、他作物からの転作の進展などにより154万ヘクタール（前年度比9.4％増）、生産量は１億500万トン（同12.9％増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表７）。

砂糖生産量は、好天により製糖歩留まりが向上し、1200万トン（同16.5％増）と大幅な増加が見込まれている。このため、輸出量は、817万トン（同15.5％増）とかなりの増加が見込まれている。現地報道によると特に、高い輸入関税措置を講じる中国に代わり、台湾向けが堅調で、2017年の台湾への輸出量は80万7000トン（前年比6.8倍）と大幅に増加している。

現地情報によると、砂糖産業関連法の改正案は2017年12月上旬、閣議で承認された（注１）。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で７：３の割合で分配する現行の収益分配方式は存続するが、砂糖の販売割当（注２）は一部を除いて廃止され、製糖企業は、生産量に応じた在庫量の確保が新たに義務付けられる予定である。政府が設定している国内砂糖価格の上限は廃止されることとなる。関係者によると、変更後の政策の完全施行は、2017/18年度のサトウキビ圧搾開始時期である2017年12月が予定されていたが、最終調整まで時間を要しているため、次年度まで持ち越される可能性もある。このような中、政府は１月15日、国内砂糖価格については同日から２年間、現行のサトウキビ・砂糖法を適用しないことで、実質的な価格自由化への即時移行を発表した。また、国内供給向けの砂糖の販売割当に関する規定も併せて廃止された。

現地情報によると、国内砂糖価格については、商務省が法改正後も引き続き監視するとみられる。これまで砂糖小売価格は、１キログラム当たり23.50バーツ（83円〈１月末日TTS：１バーツ＝3.55円〉）を上回らないよう管理されてきたが、１月15日以降、同23バーツ（82円）から同21.50バーツ（76円）程度へ下落しているとの情報もある。なお、商務省は毎月、参照価格を公表することで、今後も小売価格が参照価格以下となるよう促すものとみられる。

（注１）タイ政府は2016年４月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補塡（ほてん）金や、砂糖の販売割当および国内砂糖価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たりWTO協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月３日、ブラジルとの２国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。その後、改革案は、公聴会を実施してから再提出するよう、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）へ差し戻された。OCSBはその後、公聴会を実施し所用の見直しを行った後、再度改革案を閣議へ提出し、2017年12月上旬に承認された。

（注２）タイ産砂糖は、Ａ割当と呼ばれる国内供給向けとＢ割当およびＣ割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

### 表７　タイの砂糖需給の推移

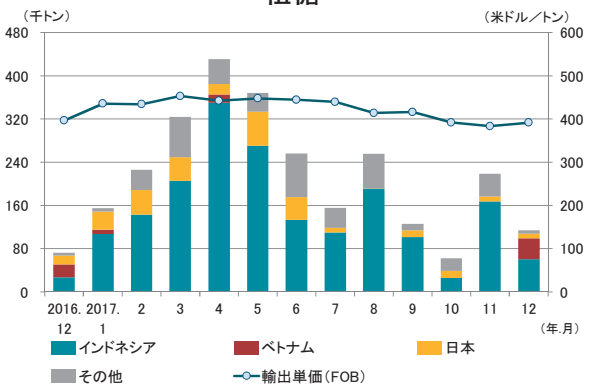
（単位：千ha、千トン、%）

| 年度 | | 2014/15 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18（1月予測） | 2017/18（2月予測） | 前年度比（増減率） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収穫面積 | | 1,403 | 1,412 | 1,408 | 1,540 | 1,540 | 9.4 |
| サトウキビ生産量 | | 105,595 | 94,047 | 93,000 | 105,000 | 105,000 | 12.9 |
| 砂糖 | 生産量 | 11,579 | 10,025 | 10,299 | 12,000 | 12,000 | 16.5 |
| | 輸入量 | – | – | – | – | – | – |
| | 消費量 | 3,489 | 3,500 | 3,500 | 3,500 | 3,500 | 0.0 |
| | 輸出量 | 8,071 | 7,805 | 7,078 | 7,882 | 8,173 | 15.5 |
| | 期末在庫量 | 5,788 | 4,508 | 4,228 | 4,846 | 4,555 | 7.7 |
| | 期末在庫率 | 165.9 | 128.8 | 120.8 | 138.5 | 130.1 | 7.7 |

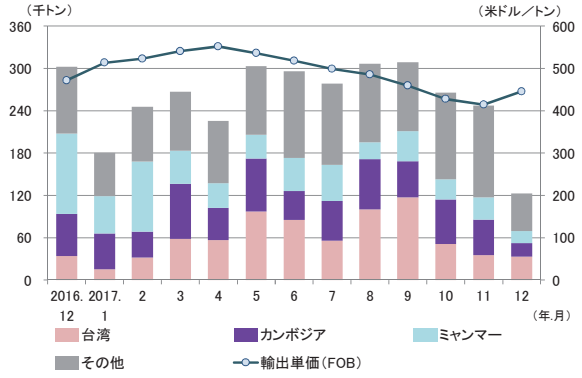
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2018」

### （参考）　タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖




精製糖




資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

## フィリピン

### 2017/18年度（9月～翌8月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：47万ha（前年度同）
生 産 量：3404万トン（前年度同）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：227万トン（同9.2%減）
輸出量：　22万トン（同8.6%増）

### 2017/18年度の砂糖生産量はかなり減少、輸出量はかなり増加の見込み

2017/18砂糖年度（９月～翌８月）のサトウキビ収穫面積は47万ha（前年度同）、生産量は3404万トン（前年度同）と見込まれている。砂糖生産量は、製糖歩留まりの低下に伴い、227万トン（前年度比9.2%減）とかなりの減少が見込まれている（表８）。

砂糖統制委員会（SRA）(注１)が発表した2017年９月～翌２月上旬の生産実績報告によると、サトウキビ圧搾量は1119万トン（前年同期比1.6%減）とわずかに減少し、粗糖生産量は95万トン（同4.0%減）とやや減少した。

砂糖輸出量は、22万トン（前年度比8.6%増）とかなりの増加が見込まれている。これは、期首在庫量が高水準であったことから、年度当初に輸出が堅調であったことが背景にある。

SRAは１月下旬、国内供給の安定化を図るため、

同年度の国内供給向けの砂糖の割当数量を砂糖生産量の80％から同93％へ引き上げることを決定した(注2)。これに伴い、米国向けの割当数量は同６％、米国以外の輸出向けは同１％へ引き下げられた。

現地報道によれば、2017年12月13日、糖類を含む飲料への課税が盛り込まれた総合的な税制改革法案が可決された。税率は、１リットル当たり６ペソ（14円〈１月末日TTS：１ペソ＝2.28円〉）、異性化糖が使用された清涼飲料水は、同12ペソ（27円）となっている。課税の決定を受け、国内の飲料製造業者には使用する糖類を異性化糖から国産糖へ切り替える動きが出てきている。同国は中国産異性化糖の最大の輸入国で、2017年の輸入量は約29万トンと、中国産異性化糖の総輸出量のうち半数を占めていた。今回の切り替えの動きにより、中国国内での異性化糖の供給過剰が懸念されている。

（注１）砂糖の供給管理政策など国内砂糖産業の管理・監督などを実施する政府機関。

（注２）2017/18年度の砂糖の割当数量は、2017年８月末時点では、国内生産量のうち、①10％を米国向け（特恵的な関税枠を有す）②80％を国内向け③10％を輸出向け―に設定していた。

**表８　フィリピンの砂糖需給の推移**

（単位：千ha、千トン、％）

| 年度 | | 2014/15 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18（11月予測） | 2017/18（2月予測） | 前年度比（増減率） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収穫面積 | | 435 | 420 | 469 | 469 | 469 | 0.0 |
| サトウキビ生産量 | | 32,369 | 30,849 | 34,039 | 34,039 | 34,039 | 0.0 |
| 砂糖 | 生産量 | 2,321 | 2,239 | 2,500 | 2,500 | 2,270 | ▲ 9.2 |
| | 輸入量 | 36 | 242 | 63 | 82 | 57 | ▲ 8.9 |
| | 消費量 | 2,436 | 2,348 | 2,301 | 2,350 | 2,300 | ▲ 0.0 |
| | 輸出量 | 47 | 168 | 199 | 250 | 216 | 8.6 |
| | 期末在庫量 | 541 | 506 | 568 | 551 | 380 | ▲ 33.2 |
| | 期末在庫率 | 22.2 | 21.5 | 24.7 | 23.5 | 16.5 | ▲ 33.2 |

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, February 2018」